



令和5年11月2(木)・4日(土)3学年そろって出来る量後の文化祭が行われました。
私たち図書委員会は、POPで本を紹介したり、オリジナルしおりを作るミニ図書館緑日を設置しました。

2学期ベストリーダー(生徒編)	
1位	32冊 小林穂菜美(18)
2位	22冊 柳愛莉(18)
3位	20冊 杉田真穂(38)
4位	13冊 石田夢(1A)
5位	10冊 今井北斗(38)

皆高生によく読まれた本 【一般部門】	
○元素の小辞典	
○変な家 雨穴ノ著	
○はじめてでも絶対作れる！ かわいい押しぬいグッズプロ	

先生方によく読まれた本 【一般部門】	
○あなたが誰かを殺した 東野圭吾ノ著	
【コミック部門】	
☆キングダム 原泰久ノ作	
☆葬送のフリーレン 山田鍾人ノ作	
☆おじさまと猫 桜井海ノ作	

2学期ベストリーダー【教職員編】	
1位	141冊 永田京美さん
2位	30冊 横田早苗先生
3位	22冊 田端浩幸先生
4位	21冊 清水明枝先生
5位	18冊 高柳秀一さん

皆高生によく読まれた本 【コミック部門】	
☆キングダム 原泰久ノ作	
☆葬送のフリーレン 山田鍾人ノ作	
☆SPY×FAMILY 遠藤達哉ノ作	
【フィトノベル部門】	
○完璧すぎて可愛げない結婚破壊された聖女は隣国に売られる	

【死神の精図】伊坂幸太郎ノ著 文春文庫

推薦者：佐々木康之先生(数学)

この小説のオススメポイントは、死神が対象となる人物を生かすか身近で観察することに
なる。また、死神自身が生と死に興味があつたが、次第に心が変化していく様子も描かれている。人を観察し理解し心が変わっていくことは思春期である高校生に通じるものがあるのではないか。一度手に取って読んで欲しい冊です。

【点と線】松本清張ノ著 文藝春秋

推薦者：待田賢一先生(看護担当)

次のページを早く読みたくなる。例えばそれは推理小説。私の読み始めは中学生の時に手に取った松本清張の【点と線】でした。10数年前からは東野圭吾・西宮みゆきの作品。推理物は面白いが、事件結末で読了後は沈みながら、そこそこで大人になる若者に青春の輝きの大切さを教えるかのような唯川恵の【サマーレンタイン】も。星堂の美しいという美屋町に行ってみたくなる結末。

図書委員会のおすすめ本

推薦者：小池雷博(18)

★小説銀魂 田中創ノ著

この作品を選んだ理由は、小説でも十分に映画の面白さが伝わることです。ギャグだけでなく感動する場面もあるので是非読んで下さい。アニメや劇場版映画もあるのでそれを見とより楽しめます！

推薦者：岡田侑大(34)

★アト・ア・ライブ 橋公司ノ著

この作品は普通の学生五河士道が精霊と呼ばれる少女と出会い、その少女たちを止める話です。止める方法は2つ。魂滅か対話。果たして、主人公はどちらを選ぶのか？是非手に取って読んでみてください。

急に冷や込むようになり冬を感じようになり、
きました。皆さんは本が好きですか？1冊でもいいので自分の読める本を探して読んでみてください。

図書委員長



R5年度 2学期HR朗読会 【よだかの星】感想文

作：宮沢賢治



醜い鳥だからという理由で、みんなから嫌われているのは凄く可哀想だと思いました。
よだか名前が似ているのが嫌な鳥は、よだかに改名を迫ったり、よだかが悪いことをしたわけでもないのに顔を見ただけで嫌うのはおかしいと思った。最後は星になってしまったよだかですが、今まで苦しんだ分、星になって幸せになって欲しいです。

この話を聞いて、読んで悲しくなりました。自分が生きるために他の命が犠牲になることに心を痛める優しいよだかだと思った。よだかの選んだ道をこの物語の結末のような人生の終わりを選んだ人々のことも否定する気にならないと常々思う。安易に「生きてりゃ何とかなる」なんて私には言えない。この物語のよだかの様な選択をした人たちにも星になったよだかの様にいつか救いがあることを願っている。

最初から最後まで今回の宮沢賢治さんの作品を読んでみて、途中でしんどいしんどいと感じる切ない話でまるで自分のことのように感じさせられた。よだかの最後はハッピーエンドで終わると思いきや、バッドエンドで終わってしまふ。

自分とよだかが本当に少しだけ似ているなど感じて、よだかが何もしていないどころか、とてもいいやつなのに悪口やら嫌がらせを受けていたのが可哀想だなと思って、真に勝手に名付けられた【市蔵】という名はどんな意味なのか？と気になったりしていました。

よだかはほかの鳥から醜いのだの改名しろだの言われていたが、星と一緒にとうとう遠く空へ飛んでいくのが印象的でした。また、山火事の大きさからよだかがどれだけ高く飛んでいるのか読者が想像できるのだからこの吸殻という表現は分かり易いと思いました。どれだけ星に相手にされなくても最後まで諦めず星になろうとしたよだかは忍耐力があり、頑固だと思いました。最後まで諦めないよだかの行動や心がこの話の教訓だと思いました。

よだか以外の鳥たちの性格が随分違う。何もしないのに見た目だけで避けられ悪口を言われ、よだかの鳥生数々で。また、よだかの兄弟たちはよだかと仲が良さそうなのが救いでした。よだかは最後まで諦めなかったで終わりが後悔もなかったです。
よだか達兄弟の会話をもちと見たかったなと思いました。

よだかの星を初めて読み、よだかは鳥たちから嫌われていて、特に真には「名前を変えないと殺す」とも脅されていた。よだかは今まで一匹で暮らしてきた仲間があらう。孤独だったのだと思いました。私ももし自分が名前を変えろと言われたら、殺すとも脅されたのに自分の名前を守ったよだかは強い鳥だと感じた。
最後まで諦めない気持ちをもち続けることで立派に星になったよだかに拍手を送りたい。

※字数制限で文章を多少短縮してはいますが、ほぼ生徒の書いた原文のままで転記してあることをご了承ください。

よだかは優しい鳥なのに、見た目の醜さから周囲の鳥たちから悪口を言われるという理不尽な目にあってとても悲しく辛い経験をしている持ち主だった。この状況は人間関係においても同じことと言える。この作品は世間に対していじめなど悪い行動を止めさせてと訴えているのに対していい。今の日本社会を反映して考えてもらえる作品だと思いました。

私はこの作品を聞いて、今の学生たちのいじめ問題に近いと感じました。よだかは自分が悪いことを何一つしていないのに聞かずに、その見た目から総てを判断されてしまい印象操作までされている。とても理不尽だ。
よだかは誰にも相談することも出来ず自分で思い詰めてしまった結果星になってなくなりましたが、最後の最後まで諦めない心を持ち続けていたで、あまり悔いを残さず死ねたのかなと思いました。

私は【よだかの星】を読んで、どんな生き物の世界にもいじめのようなものは存在するんだと思いました。でも、よだかにはよだかを支えてくれた兄弟がいたことで、彼らの存在がよだかの生きる力になっていた。
ですが、真に自分の名前の改名を迫られたり、また、改名しないと殺すとも脅されて、兄弟たちの支えがあれどさすがに生死にまで口を出されたのはたまったものではありません。
誰にも相談することが出来ず、独り空に落ちたよだか。飛んでいる間、自分の口にかぶと虫や羽虫が口に入ってきて、よだかは思わず食べてしまいます。
生きていて同時に他の命の犠牲の上に成り立っているんだとよだかは気づく。自分の存在を否定されるのは悲しいこと。だけど、改名するくらいなら自分は自分の気持ちを守りたい。その諦めない気持ちを持ち続けた結果、星になったよだか。最後には形が違えど輝く存在になれた。どんなものにも色々な生き方があろうと思う。

